

② 東臼杵小体連

健やかな心と体をはぐくみ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習を目指して
～ゲーム・ボール運動における指導の工夫を通して～

発表者（美郷岡立北郷小学校 河野 一郎）

進行・司会者（美郷岡立田代小学校 中原 照美）

記録者（延岡市立一ヶ岡小学校 津田 淳志）

発言者	内 容
川南小 川原先生 発表者	<p>なぜフラッグフットボールを実践されたのか。</p> <p>フラッグフットボール協会よりボールやワークシートをいただいたことがきっかけである。話し合い活動を通してかかわりながら学習を行うことをねらいとした。</p> <p>少人数の学級も多い地区であるため、合同で体育の学習を行ってきた。その時に、フラッグフットボールはかかわりが生まれるため、とてもやりやすかった。</p>
吾田東小 長友先生 発表者	<p>フラッグフットボールを指導したが、ルールが難しく、ゲームが成立しなかった経験がある。どんな指導をされたのか。</p> <p>DVDを視聴し、ルールや作戦などのイメージをつかませた。映像は効果的である。パスキャッチは、ドリル練習を行うことで成功が増えた。</p> <p>作戦カードも活用している。子どもたちに作戦を考えさせていく。また、運動量が少なくなることも考え、準備運動において5種目走（ウサギ跳び、後ろ向き走など）を行っている。</p>
吾田小 重山先生 発表者	<p>タグラグビーとフラッグフットボールの違いは？</p> <p>判定がしやすい。また、一つのプレイごとに作戦を考えることができる。しかし、考える時間が長いため、運動量が十分確保できない。そのために準備運動において5種目走を実施している。</p>
瀧上小 竹口先生 県スポーツ振興課 原田指導主事 南九州大学 宮内教授	<p>フラッグフットボールは、ルールの変更・工夫ができる。日本フットボール協会のホームページに詳細が載っているので確認すると良いと思う。</p> <p>学習のゴールイメージをどのようにもつのか。苦手な児童にどのように指導を行っていくのかを考えていく必要がある。</p> <p>ボール操作については積み上げ式の指導が以前はあったが、ゲームがないから面白くない。練習でできて、試合のときにできない。身に付けたことが生かされないため、意味がない。</p> <p>かといって、ゲーム中心では子どもたちが何を学習するかがわからない。だから、学習内容を明確にする。何を扱っているのか。何を学ばせるのかが大切である。</p> <p>いかにパスを通すために状況判断を行い、攻めていけるか。ボール操作を学習することが目標ではない。</p>